

平成 30 年度 広島県立広島南特別支援学校 小学部授業研究会

- 1 研究テーマ 「聴覚障害児の思考力を育てる指導の在り方」
- 2 日時 平成 30 年 6 月 11 日 (月) 13 : 50 ~ 16 : 50
- 3 授業者・単元名
第 5 学年 1 組 担任 鷹取 洸樹 算数科「小数のかけ算を考えよう」
- 4 指導助言者
東北福祉大学教育学部教育学科 教授 大西 孝志 先生
廿日市市立平良小学校 指導教諭 松本 淳美 先生
- 5 研究授業の様子



学習指導案は [こちら](#)



主に聴覚障害教育の視点

大西先生からの御助言 (一部紹介)

- ・手話・指文字・音声等多様なコミュニケーションを使用していることがよい。
- ・(午前中に他の学年も参観したが) 一貫した指導が行われている。学部を通して、統一した指導を行うことは大切なことである。
- ・児童の手話の仕方を指導することも必要。相手に伝わりやすい表現を意識させることが大事。(児童の手話表現は、適当なことも多いので・・・)
- ・聴覚障害のある児童は、百ます計算はできるが、問題文の意味を正しく理解することが困難で、四則演算の区別ができない場合が多い。日常的に使用することが少ない言葉や抽象度が高い言葉を、簡単な言葉に置き換える支援を行い、最終的には、自分で文章を読んで分かるようにさせていく指導が必要。文章題を読み取れない理由としては、単語の意味が分からない場合もあるが、1つ1つの単語は知っているても、文章のなかで関係性が分からず、意味がつかめないことが多い。経験の少なさも関係する。分からない理由を確認することが大事である。
- ・(授業からは離れるが)「以下同文」や「吉日」など、聴者が耳から聞いて学習しているような言葉について、聴覚障害のある児童が、理解しているかどうか、確認する必要がある。
- ・知らない言葉を、知っている言葉で他の人に説明できる力も必要である。その経験を増やす必要がある。

主に算数科の視点

松本先生からの御助言 (一部紹介)

- ・本時の内容は、4年生の時に同じようなことを扱っているが、小数になるとイメージがしにくくなる。そのため、数直線を使う。かける数が小数になっても、思考パターンは使える。
- ・本時で扱った内容は、全国学力・学習状況調査で正答率が低かったところである。学習指導にあたっては場面を図に表すことが大切だと書いてある。図に表すということについて、低学年からの積み上げが大事。文章をきちんと読んで、図を描く指導を徹底していくことが大事。
- ・本時の授業の流れの中で、どこで、より思考を深められたかを考えると、1つ目は、数直線を使って説明する場面。数直線を指し示しながら説明させると、児童が本当に理解できているのか分かる。あまりにも、スムーズな時は、ゆさぶりをかける。例えば、「この→の方向だったらわり算ではないの？」など。2つ目は、児童が、かけられる数とかける数を逆にしたことに気付いた場面。正しい式に直した理由を考えさせると、より思考が深まった。
- ・(松本先生が) 授業を考える時には、児童がどういった発言をするか、どう考えるかをこれでもかと考えることを大事にしている。
- ・問題を解く前に、予想(見当をつけさせる)ことが大事。また、場面設定を考え、問題に必然性を持たせることが大事。児童の主体的な学びにつながる。